

3

海外の特徴的な事例



3-1 ロンドンのコミュニティサイクルシステム

(財)自治体国際化協会元業務部企画調整課主査 濱田 啓介 (さいたま市派遣)

ロンドンのコミュニティサイクルシステム “Barclays Cycle Hire”

ロンドンのコミュニティサイクルシステム Barclays Cycle Hireは2010年7月にサービスを開始している。ロンドンのあちこちで目にする青い自転車がBarclays Cycle Hireの貸し出し用自転車である。市街中心部44km²に315か所の自転車貸し出しポートと5,000台の自転車を整備してスタートしたロンドンのコミュニティサイクルシステムは、事業開始から2年の間に継続的に拡大を続け、現在で



Barclays Cycle Hireイメージ
(BCHホームページ)

は65km²に570か所の自転車貸し出しポートと8,000台の自転車を用意してロンドン市民とロンドンを訪れる人々にサイクルシェアリングのサービスを提供している。サービスの登録会員数はロンドン市民18万人、利用回数はこれまでに2,000万回を超え、通勤・通学やレジャーなど日々の交通手段としてBarclays Cycle Hireは利用されている。

新しい都市交通としてのサイクルシェアリング

ロンドン市街の都市交通はロンドン地下鉄TubeやロンドンバスDouble Decker、ロンドンタクシーBlack Cabなどの公共交通で有名である。そしてこれら充実した都市交通がもたらす交通渋滞や環境への負荷、市民の健康への影響はここロンドンでも

切実な課題である。この課題に対してロンドン市長 (Mayor of London) Boris Johnsonは交通政策マニフェスト London's Cycling Revolutionを策定し、2025年までにロンドンの都市交通における自転車の利用を2001年度比で400%とする目標を掲げた。市民の生活に自転車を取り入れることによって、都市環境の改善と市民の健康の増進を図るものである。Barclays Cycle Hireはこのマニフェストの旗艦政策としてロンドンに導入された新しい都市交通である。事業はロンドン交通局 (Transport for London、TfL) に所管され、名実ともにロンドンの公共交通として Barclays Cycle Hireは運営されている。

手軽に利用できるコミュニティサイクル

実際に Barclays Cycle Hire を利用してみるとそのサービス利用の手軽さはとても印象的である。Barclays Cycle Hireのサービスは24時間365日無休で提供され、利用手続きはドッキング・ステーションと呼ばれる無人の自転車貸し出しポートで行われる。サービス料金は自転車のレンタル利用権であるレンタル料金と自転車利用時間に伴って加算される利用料金から精算され、支払いはクレジットカードまたはデビットカードを使用する。事前に会員登録をしなくてもサービスを利用することが可能であり、クレジットカードを用意するだけでその場限りで自転車のレンタルができる手軽さはとても魅力的である。ドッキング・ステーションの操作パネルは日本語を含む18の多言語に対応し、Barclays Cycle Hireはロンドンを訪れる旅行者にもサービスの利用を大いにアピールする。TfLによって毎月公表される統計資料によればサービス登録会員以外の一般利用者による利用は全体の30%を占めるといふ。



300mごとに配置されるドッキング・ステーション

自転車のレンタル利用権であるレンタル料金は24時間2ポンド、7日間10ポンド、サービス登録会員は割引となる1年のレンタル利用権を90ポンドで購入することができる。なお、ロンドンバスの1回の乗降料金は現金支払の場合で2.4ポンドである。自転車走行時間に伴う利用料金は最初の30分までが無料、

その後30分ごとに加算されることになるが、レンタル利用権の期限内は何度も自転車のレンタルが可能であるので、利用者は30分以内の走行で自転車を返却することで利用料金の追加を受けることなく何度も自転車を乗り降りすることができる。自転車の返却手続きはドッキング・ステーションのサイクルポートに自転車を固定するだけであり、好きな場所で自転車を借りて好きな場所で返すという軽快なコミュニティサイクルシステムのサービスを Barclays Cycle Hireは570か所のドッキング・ステーションで実現している。

サービスの拡充によりさらなる利用を

事業の中間報告である利用者調査によれば、Barclays Cycle Hire登録会員の利用の46%は通勤を目的とすることが示されている。また、Barclays Cycle Hireのサービス利用をきっかけに自転車を購入し、日々の生活に自転車を取り入れるロンドン市民が増えていることも利用者調査はあわせて報告する。これらの調査結果からは、市民の生活における自転車利用の促進という Barclays Cycle Hireのコンセプトが効果を上げていることが窺える。TfLはサービスの拡充にますます力を入れ、現在 Barclays Cycle Hireは2013年12月に予定される southwest Londonでのサービス開始に向けて、さらなる事業拡大を継続中である。

一方で、570か所のドッキング・ステーションと8,000台の自転車という規模で運営される Barclays Cycle Hireにかかる費用は、これまでの設備投資費及び運営費を合わせて総額1億4千万ポンドといわれており、18万人の登録会員を有する Barclays Cycle Hireであっても採算の見通しは今のところ不明瞭であるとされている。30分の無料利用時間と以降加算される利用料金の仕組みは自転車の共有を実現する反面、93%の利用が無料時間内という結果を導くことになっている。事業拡大には巨額の費用が必要であり、事業収入をレンタル料金だけに頼らざるを得ない Barclays Cycle Hireは、2013年1月からレンタル料金の値上げを実施している。レンタル料金はそれぞれ以前の2倍の価格に改訂され、これによる収入増は年間600万ポンドの額が見込まれている。

事業開始以降初めてとなるレンタル料金の値上げは、実質として Barclays Cycle Hireの事業の見直し

を意味するものである。今のところ大幅なサービス利用減など目立つ影響は出ていないが、料金値上げによる収入は事業拡大の費用となることが予定されているところ、その事業拡大がどれだけ新たなサービス利用に結びつくことができるかが注目される。

事業拡大の計画では200か所のドッキング・ステーションの増設と2,000台の自転車の投入が予定されており、サービス環境を充実させることによって、新たなエリアでの事業開始による新規利用者の開拓とあわせてサービス利用の一層の増加が期待されている。